

研究・調査報告書

報告書番号	担当
169	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Is there an association between seeing incidents of alcohol or drug use in films and young Scottish adults' own alcohol or drug use? A cross sectional study.</p> <p>映画の中でのアルコールや薬物使用とスコットランドの若い成人におけるアルコールや薬物使用には関連があるか？断面調査からの検討</p>	
執筆者	
<p>Hunt K, Sweeting H, Sargent J, Lewars H, Young R, West P.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>BMC Public Health. 2011 Apr 23;11:259.</p>	
キーワード	
<p>アルコール薬物、フィルム、映画、青年</p>	
要 旨	
<p>背景： アルコールと薬物に関する若者への直接広告が、ますます制限されているように、映画の中で特定の振る舞いのイメージが若者に対してこれらの行動に関連付けられているかどうかに関心が集まっている。協会は、米国とドイツの若者に対し映画の中での喫煙イメージの暴露と喫煙開始及び映画の中でのアルコールのイメージと飲酒開始について、どのように関連しているか報告した。今までの研究では、気晴らしの薬物使用や若者自身の薬物使用の映画の印象に関する報告はなかった。</p> <p>方法： 以前、スコットランド西部の学校でコホートから 19 歳 (2002~4) で収集されたデータ (502 人の男の子と 500 人の女の子) から 11 歳 (1994~5)、13 歳と 15 歳で断面多変量ロジスティック回帰分析を実施した。19 歳でのアウトカム指標は以下の通りだった。ガイドラインでの適正飲酒を超えた ("大量飲酒者") 者や、最後の週に報告された飲酒量に基づいて常習飲酒者とされた者は、これまでに大麻や薬物の使用が見られた。原理説明変数は、若者の間で映画の中でアルコールや薬物使用のイメージに接することが実態を理解する要因と関連しているという評価であった。</p> <p>結果： これらの若者の 1/3 (33%) は、"大量飲酒者"でそのうちの半数 (47%) を、前の週の飲酒量に基づいて"常習飲酒者"として分類。半数以上 (56%) がこれまでに大麻使用の報告があり、13%が薬物のうちの 1 つ以上を使用していた。アルコールの映像によっては大量飲酒者 (P=0.018) と常習の飲酒者 (P=0.012) と薬物使用の画像による薬物曝露 (P=0.000) と大麻や薬使用 (P=0.033) は線形傾向があった。大量飲酒 (1.56, 95%CI:1.06~2.29) 映像の中の飲酒曝露の最低四分位と最高の比較) と常習飲酒者 (1.59, 95%CI:1.10~2.30) のオッズ比は性別、社会階級、家族の背景 (親の構造、親のケアや管理)、リスクテイクと規則破り、態度 (大量飲酒 1.42, 95%CI:0.95~2.13, 常習飲酒者 1.49 95%CI:1.01~2.19)、そしてさらにその友人の飲酒状況 (DDS の比率はもはや有意ではなかった時) を調整することにより縮小した。同様の傾向が大麻と薬物の使用でも見られた (未補正 OR 1.80, 95%CI: 1.24~2.62, 1.57 95%CI, 0.91~2.69, 調整後は OR 1.41, 0.90~2.22, 1.28, 0.66~2.47)。</p> <p>結論： いくつかの制限(それらは議論される)にもかかわらず、これらの横断調査結果は、思春期および初期成年期に潜在的に健康に有害な振る舞いのイメージへ暴露や、振る舞いの理解力、そしてこの関係要因を検討するために縦断的研究を設計することが重要であることを示唆する。</p>	